

新しい公益社団法人への移行について

社団法人 沖縄県小児保健協会
会 長 玉那覇 榮 一

平成24年4月1日から、これまでの沖縄県小児保健協会の活動が認められ、新しい公益社団法人として出発することになりました。従来の社団法人より厳しい条件をクリアしなければならなかったことは、本誌や事務局からの文書などでご理解できたと思います。今後の本協会の活動には、なお一層の公益活動が求められる事になります。

乳幼児健診事業や各種研修事業、研究事業と共に、新たに沖縄の子ども達が健やかに育つ活動に取り組むことが期待され、さらに、本協会の活動の大きな部分を占める乳幼児健診事業において、これまで積み上げられた膨大なデータを科学的に分析して、その結果をいかに有効活用できるかであります。

当然、目指すべきは、乳幼児期からの健診データが、その人の生涯にわたる健康維持に活かされ、ライフサイクルにわたる保健・医療データの一元化であります。

さらに昨年の東日本大震災で起こったことは、役場も保健・医療機関も流失し、戸籍、介護保険、保健医療情報の全てが消失し、過去の情報にアクセスできない状況で、助けを必要とする人々だけがとり残された状態でした。その結果、救急災害医療や、その後の保健活動が大きな困難に直面しました。今回の震災から学んだことは、書類や独立型パソコンだけに頼った従来型のシステムでは対応できなかったことであり、情報の共有化とクラウド化の必要性であります。

その実現には、国の保健・医療政策とも関わり、システムの完成には、なお時間がかかると思いますが、技術的に可能な段階に入り、医療のIT化と共に徐々に進行しております。幸いな事に、沖縄県は全県的に同一の問診票を使用して、統一した基準による乳幼児健診が実施され、成果をあげております。

今年度は、システムのクラウド化と、健診現場での電子化を一步でも前に進め、将来へ備える元年となることを期待しています。

公益社団法人沖縄県小児保健協会の新たな一步を、皆様と共に築いてまいりましょう。